

初學日用文教授書

江尻庸一郎編
小池民次

卷一

282
25

K
47

B 29

3 4 6 8



左ノ各項ハ歐米教育家ノ幾多ノ理論ト經驗トヲ積テ組成セシモノニシテ現今
 教育諸大家ノ一般ニ是認スル所ノモノナリ弊舎出版ノ教育書及教科書ハ總テ
 此格言即心性開發的教授ノ新主義ニ依テ著シタルモノナリ

普及舎主敬白

- 一 活潑ハ兒童ノ天性ナリ○動作ニ慣レレトヨ○手ヲ習練スルメヨ
- 二 自然ノ順序ニ從ヒテ諸心ヲ開發スベシ○最初心ヲ作り後之ニ給セヨ
- 三 五官ヨリ始メヨ○兒童ノ發見ヲ得ル所ノモノハ決シテ之ヲ説明スベカラズ
- 四 諸教科ハ其ノ元基ヨリ教フベシ○一時一事
- 五 一步一步ニ進メ○全ク貫通スベシ○授業ノ目的ハ教師ノ教ヘ能フ所ノ者ニ
 アラズ生徒ノ學ビ能フ所ノモノナリ
- 六 直接ナルト間接ナルトヲ問ハズ各課必ズ要點ナカルマカラズ
- 七 觀念ヲ先ニ示出テ後ニスベシ
- 八 已知ヨリ未知ニ進メ○一物ヨリ一般ニ及ベ○有形ヨリ無形ニ進メ○易ヨリ難
 ニ及ベ○近ヨリ遠ニ及ベ○簡ヨリ繁ニ進メ
- 九 先ツ總合シ後分解スベシ

初學日用文教授書卷一

例言

此編ハ小學教則綱領ニ基キ初等科第二年後期以
 上ノ生徒ニ日用文ノ初級ヨリ教授スルヲ目的ト

シテ編纂セリ故ニ其章句ヲ簡易ニシテ學習ニ便
 シ日用ヲ辨セシムルヲ主トセリ

一從來日用文ノ文字ハ數種ノ行草体ヲ併用スレバ
 自己ノ思想ヲ表出センニハ其一種一体ヲ書キ得
 レハ足レリ故ニ此編ハ務メテ普通ノモノヲ用キ
 生徒ヲシテ徒ニ記性ヲ勞スルコトナク專ラカヲ

思想ヲ整ヘテ之ヲ表出スルニ用キシムルヲ旨トス

一此編ハ男女ヲシテ同一ニ學習セシムルニアリト雖モ女子ニハ成ルヘク温和ナル字句ヲ用キシムヘシ例ヘハ目出たヲ注目出たトシ進呈ヲ注目ト掛ケトシ依頼ヲ依頼ミトスルカ如シ

一書式類語ヲ授ルニ單ニ類語ノミヲ以テスルキハ事實ノ連絡ナキヲ以テ永ク心中ニ記スルヲ甚タ難シトス故ニ此編ハ最初ヨリ書式類語ヲ事實ニ連絡シ日用文トシテ編纂セリ

一上欄ニ記スル所ノ文字ハ教授ノ際言語ヲ字句ニ改メシムルニ當テ之ヲ示シ又ハ文章中ノ字句ヲ書取ラシメンカ爲ナリ故ニ詳ニ其意義讀方及書方ヲ教フヘシ

一教授ノ方法ハ事實ニヨリ授クヘキ文章ノ思想ヲ誘導整頓シテ言語ニ表出セシメ其言語ヲ假名ニテ黑板ニ記シ更ニ生徒ヲ誘導シテ文章ニ改メシメ相當ノ字句ヲ與ヘテ各自ノ石盤ニ之ヲ記サシム然ル後黑板ノ假名ヲ消却シ更ニ生徒ノ文章一ニヲ撰テ之ヲ黑板ニ記シ之ヲ添削シ各生徒ヲシ

テ其文章ヲ讀講セシメ書方ヲ習ハシムルノ後帳簿ニ記サシム但シ生徒ノ此編ヲ携フル者ハ別ニ帳簿ニ記サシムルヲ要セサルヘシ

一練習復習ノ際ハ類似ノ口上書ヲ作ラシメ以テ字句ノ應用ヲ知ラシメ或ハ文章中ノ字句ヲ變化シテ石板又ハ黑板ニ書取ラシムルコトアルヘシ

明治十六年十月

編者記

初學日用文教授書卷一

江尻庸一郎
編
小池民次

第一課

書物差上、書物差冊差上、
 半紙拾半紙拾帖進上、
 帖進上、菓子差折差上、
 子、菓子墨、墨式挺進上、
 校上、

或擬致し、由受納、下さるべく、

筆を人におくる文

筆式本差上り由受納下さるべくい

梅の花を人におくる文

梅の花を枝遣し致し由受納下さるべくい

第二課

入用は付、由遣し下さるべくい

遣す、早朝、由遣し下さるべくい

序の前面、由序の前面、由下されぬい

下されぬ、学校まで、由届け下されぬい

学校

炭をとりよする文

炭拾俵、入用は付、明の早朝、由

遣し下さるべくい

此今、
 人またのみて今を届ける文
 此今市序の節、学校へ届け
 下され度い

第三課

明きいり、或明きまいり、拝借致し度い
 或三日の旨、拝借致し度い
 旨、拝借、此、此者、旨遣し下され度い
 者、用立、地、用立、地圖、用立、下され度い

圖、返す、
 用、下され度い

借用、
 作文教授書を借用する文

作文教授書、
 の旨、拝借致し度い、
 下され度い

貸し、
 先、錦繪、
 貸したる錦繪をとりよする文
 先、用立、錦繪、用、下され度い

第四課

繕双紙返 拝借の繕双紙返上致し
 上及め受取下され候
 取中裁下中裁の物使
 物使お渡 後と用下さるべく
 一後と用返し下され候
 受取
 候

膳椀を返す文

膳椀

拝借の膳椀返上致し
 取下され候

眼鏡を貸し渡す文

眼鏡百、
 取中裁の眼鏡使
 百後と用お下さるべく

第五課

私方出出
 私方出出下され候
 祭礼待上
 祭礼に付出下され候

繰居、糸上、繰居せ糸上、繰居せぐくハ
 古宅、繰居、糸上、繰居せぐくハ
 先、馳走、先、ハ、古、馳走、ハ、相成ハ

招く、
 今、
 礼述、

祭礼ハ人を招く文
 祭礼ハ付今、夕刻より古繰居せ
 古出下され、夜待上ハ
 馳走の礼を述ぶる文
 先、ハ、存、ド、よ、さ、さ、る、古、馳走、ハ、相

成有り難く存ハ

第六課

花火、見物、花火見物ハ古同道、繰居、ハ、夜ハ
 同道、只今、只今より古同道、繰居、ハ、夜ハ
 休業、学校ハ休業ハ付古同道、繰居、す、ぐくハ
 以、古同道、古、以、里、中、ハ
 差支、差支、古、以、里、中、ハ
 授用事、授用事、古、以、里、中、ハ

花見

人を花見よさをふ文

今日九学校も休業に付花見よ

同道校に成り

同道を以る文

此同道校に成り一ども今日の差

支これ有りけり此校に成り

第七課

出席兼

差支これあり出席校に兼り

用事これありけり一ども都合せ出席

校に成り

村内集會

村内に集會これあり出席校に

腹痛不兼

腹痛に付不兼校に

不兼校に成り此校に成り

此校

此校此由中上り

出席の文

昨夜

差支出れあり明日の集會より
出席致し兼つる此段は
不系致し此段は
昨夜より腹痛致し
不系致し此段は

第八課

宜く、於上、宜く、於上、

萬事都合宜く、

正襟合せ出、

如何、哉、如何、哉、

何、後、何、後、

用事ありて人を

儀

正襟合せ出、
如何、哉、如何、哉、
何、後、何、後、
用事ありて人を
正襟合せ出、
如何、哉、如何、哉、
何、後、何、後、

都合を問合する文
今日出仕在り候度ハ此都合如何
ハ哉伺度ハ

第九課

何品戴き
此程厄介
毎夜世
話成志
何すりの品戴き有り難く存
此程厄介ハ成成ハ
毎夜世話ハ成志く存
招き下さる志く存

く、お替り
後、毎、世

症、
贈る、
礼を述べて物を贈る文

毎夜世話一系上致し厄介ハ
成有難く存此品進上致し
召し受納下さるべくハ

若、
招き若ある文

祭礼、
後刻、
此祭礼ハ付仕招き下さる志く存
ハ後刻系上致さるべくハ

雨具

昨日

第十課
雨具を返す文

昨日の雨具拝借致し有り難う存
ひ今日返上致し奉る由受取下さ
べく以上

月日

何の誰様

炎下

何の誰

病氣
風邪

病氣まで生、涕をぬる文

今朝より風邪を今日の日集
ま、出席致し、兼此般の
中以上

月日

何の誰様

炎下

何の誰

初學日用文教授書卷一終

